

診療予定表 (平成25年12月1日現在)

診療科		月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
1 ブロック (1階)	内科	1診(総合診)	三瀬		安原		清水		中野(循X第1週) 日村(循X第2週) 宮澤(循X第3週) 日村(循X第4週) 矢野(循X第5週)		清水(第1-3週) 綿貫(第2週) 仲原(第4週) 月野(第5週)	
		2診(消化器)	來住		仲原		杉谷		永岡		田辺	
		3診(消化器)予約制					保科(腎臓内科)					
		4診(消化器)予約制 午後再診	永岡		杉谷		田辺		仲原		來住	
		5診(血液)予約制 午後再診	浅井		吉川		浅井		吉川		吉川	
		6診(糖尿病/内分泌) 午後再診予約のみ	矢野		黒江		矢野		黒江		菱澤	
		7診(糖尿病/内分泌) 再診予約制	松尾 (膠原病)(完全予約制)		原田(第1週)・菱澤(第2-3週) 田原(第4週)・近藤(第5週午前) 原田(第5週午後)		黒江		原田		矢野	
循環器科	1診(午後は予約のみ)	綿貫	綿貫	下司		中野		日村(第1-3-5週) 中野(第2-4週)		日村	梶本	
	2診(予約制)	日村	中野(第1-3-5週) 眞鍋(第2-4週)	日村	日村	池田				池田	綿貫	
	3診(予約制)	宮澤		P M外来 (第1-3週)	宮澤			下司				
2 ブロック (1階)	脳神経外科	1診(予約制)	金子(予約のみ)		中久木		井坂			金子(予約のみ)		
		2診	中久木		光野		高田		光野		井坂	
	神経内科	1診(午後：再診予約制)	小林/宇佐美		斎藤/高橋		上村	上村	宇佐美/小林		江川	江川
		2診再診(予約制)										
	整形外科	1診初診	堀		福田		角田		山内		光石	
		2診再診(予約のみ)	福田		角田							
3診再診(予約のみ)						光石		堀		山内		
3 ブロック (2階)	形成外科	1診	笹尾		笹尾		堀内		堀内		伊藤	
		2診	伊藤		堀内		伊藤		笹尾			
		予約再診		伊藤/笹尾/堀内			伊藤/笹尾/堀内 褥瘡外来					
	皮膚科	1診	山本		山下	山下	山本	山下	山下		戸田	山本(第1-3-4週) 戸田(第2-3-5週) 山下(第1-2-4-5週)
		2診	戸田		山本	山本	戸田	戸田	山本		山下	
		3診										
	呼吸器科	1診	林(第2-4週)		金田		林				重森	
2診		月野		禁煙外来 (9:30~11:00) 完全予約制		渡邊		月野		渡邊		
心療内科	1診(完全予約制)					西山(初診)	西山(15時まで)					
緩和ケア科	予約制		黒丸								黒丸	
4 ブロック (2階)	外科	1診(初診)	赤松		寺村		赤松		李		安田	
		2診(再診)	李		安田		小松原		寺村		赤松	
		3診(再診)			大石				平田			
		乳腺外来(予約制)				○						
		肛門外来(予約制)		李								
	泌尿器科	1診	沖中		和田		長谷		和田		長谷	
		2診	長谷		成田		多和田		沖中		和田	
5 ブロック (2階)	眼科	1診(午後は予約のみ)	平井	平井	平井	平井	平井	平井	休診(手術のため)		平井	平井
		2診										
	歯科 口腔外科	1診(紹介外来)	山田		山本		前田		山田		前田	
		2診	北本		前田		北本		北本		山本	
		口腔内科(完全予約制)	山本		○		○		山本		山田	
		インプラント(完全紹介予約制)			○(第3週のみ)	○		○				
		顎関節外来(完全予約制)		村上(第1週のみ)								
		口腔衛生指導(完全予約制)		○					○		○	
		口腔腫瘍外来(完全予約制)		山田(第3週のみ)								
		外来手術(完全予約制)		○		○		○	○			
耳鼻 いんこう科	1診	片岡		片岡		片岡		片岡		片岡		
6 ブロック (2階)	小児科	1診(午後は予約外来)	石上	西島	石上	神経外来 栗屋(第2-4週)	神谷	アレルギー外来 石上(第1-3週) 内分泌外来 畑(第2-4週)	西島	梅原	石上	心臓外来 神谷(第1-3-5週) 西島(第2-4週)
		2診(午後は予約外来)	西島	安部	安部	神田	神田	神谷	神田	石上	神谷	アレルギー外来 石上(第1-3週)
		3診	安部		梅原				梅原			
		健診センター								予防接種 神田		予防接種 石上(第2-4週)
	産婦人科	2診(9:30から診察開始)					宇田					細川(第1-3-5週) 非常勤交代制 (第2-4週)
3診(9:30から診察開始)		阿知波		阿知波		阿知波		阿知波		阿知波		
地下	放射線治療	嘱託医									嘱託医	

※診察受付時間は、初診・再診 午前8時から午前11時まで(予約の方は除く) ※神経内科・整形外科・歯科口腔外科の初診は、紹介状をお持ちの方のみとさせていただきます。
 ※歯科口腔外科の再診は、予約制とさせていただきます。 ※歯科診療は応急処置のみです。かかりつけ歯科医院を受診してください。 ※「○」印は同科医師で交替。

院内季節の花だより



花の名前：エリカホワイトデライト
 原産国：アフリカ、ヨーロッパ
 花言葉：孤独な思い
 咲き場所：医療情報センター前
 フラワーボット
 開花時期：4月~12月

花の名前：ノースポール
 原産国：アフリカのアルジェリア周辺
 花言葉：誠実
 咲き場所：救急入口道路沿い
 開花時期：12月~6月

花の名前：メカルドニア
 原産国：アメリカ大陸
 花言葉：知性、思いつける
 咲き場所：フラワーボット
 開花時期：主に5月~10月頃

花の名前：ブラギカム
 原産国：オーストラリア
 花言葉：可憐なしぐさ
 咲き場所：フラワーボット
 救急室アプローチ
 開花時期：主に3月~11月



彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882
 TEL:0749-22-6050 FAX:0749-26-0754
<http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/>

外来受付時間：

午前8時から午前11時(予約診は午後4時まで)
 休診日：土曜日、日曜日、祝日および年末年始

かきやき通信

2013.12
vol.07

彦根市立病院は、今年で創立122年です



住みなれた地域で健康をささえ
安心とぬくもりのある病院

CONTENTS

あいさつ	1
医療安全推進室から	2
知って得する病気の話	3
院内楽楽(たのらく)通信	7
『世界糖尿病デー』関連イベント	9
がん相談支援センターからのお知らせ	11
院内探検隊	12
ようこそ栄養科へ	14
看護部だより「スマイル」	15
部門紹介	16
医療社会部だより	17
ご意見番より	18
コラム	19
これであなたも10歳若返る!?	20
緩和ケアかわら版	21
人間ドック	22

- 1 湖東保健医療圏の総合的医療センターとして
高度な医療を提供する
- 2 安全性、信頼性の高い良質な医療を提供する
- 3 患者の権利と満足度に配慮した
患者中心の医療を提供する
- 4 地域の病院・診療所と役割を分担し、
保健・福祉分野を含めて連携・協力する
- 5 教育・研修機能をもつ地域に開かれた病院を
めざす



院内医療安全週間の活動について

●院内医療安全週間…

本院では、平成14年（2002年）7月の医療事故を契機に毎年7月の最終週を院内の「医療安全週間」とし、11年間継続してきました。この期間中は、セミナーを開催するなどの医療安全活動の強化をしています。

●今年度の医療安全週間（2013.7.22～26）

医療安全週間では、月曜～金曜の毎日「医療安全セミナー」を開催し、医療安全に関する教育的講演や院外講師を招いての講演会、部署の活動報告や安全対策評価を発表したりなど、様々なことをしています。その他に院内パトロールを実施して、院内の安全対策の現状調査なども行っています。また、この医療安全週間において、日頃から医療安全活動に積極的に取り組んだり、活動報告が優秀であったりした部署などを表彰しています。

医療安全週間 医療安全セミナー	
7月22日(月)	
教育講演1 「酸素療法と気道管理について」 麻酔科部長 高瀬聡史	
23日(火)	
事故想定訓練 「CT撮影時の患者誤認」 深夜2時、同時に救急受診した2名の男性老人は頭部のCT撮影をする必要になったが……	
24日(水)	
1.「10年目の報告システムから」 医療安全推進室 谷口孝二 2.「血液浄化用膜の取り換えに関する今後の検討」 臨床工学科 藤井翔太	
25日(木)	
3.「血管造影室におけるタイムアウト導入への取り組み」 放射線科看護部 水長真由美 教育講演2 「アレルギーと医療安全」 診療局長 石上 毅	
26日(金)	
特別講演 「患者が望む医療安全」 弁護士 増田聖子先生	



特別講演会



表彰授与式

—事故想定訓練—

昨年から実施している「事故想定訓練」も、この医療安全週間で実施しました。これは、万一の事故の際に、病院の総力を結集した最善の治療ができるように、医療者それぞれの立場で事故の初期対応手順を身につけることを目的にしています。

「事故想定訓練」は、シナリオを作成して職員が患者、家族、医師など医療者をそれぞれ演じます。事故の発生から救命処置、家族対応と職員連絡、院内事故対策会議の開催や家族説明、そして外部への報告などをシミュレーションしていきます。これまでに、抗菌剤による「アナフィラキシーショック」、口頭指示による「注射間違い」を想定した事例を実施してきました。今回は、CT撮影時の「患者誤認」を想定して実施しました。見学参加した職員も、事故が起こったらどうなるのか、どうしていくのかを体験できた研修となりました。



事故想定訓練



心がかよう地域の病院をめざして 宮崎医師の足跡に学ぶ

事務局長

川嶋恒紹 かわしま ひさつぐ



はカナダ勲章を授けられています。

郷土が輩出した偉大な医師である宮崎医師のことは、地元彦根市でさえあまり知られていませんが、このほど出版された「国際文化研究

どり着き、診察をする。あるいは急を要する患者さんのもとへも労力を惜しまず雪山を駆け登って助けるなど、過酷な条件の中で人々への医療の提供に尽力されました。また、診療所の整備や救急車の配備など、医師としてだけではなく医療経営者としての手腕も如何なく発揮された記録が書き記されています。

看護師や薬剤師、理学療法士や作業療法士、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線検査技師、栄養士など、様々な職種の職員が同じ目標に向かって連携して対応することが求められています。

“住みなれた地域で健康をささえ、安心とぬくもりのある病院”これは、彦根市立病院が掲げる基本理念です。地域の皆様と心がかよう病院をめざして、職員全員が力を合わせてまい進できるよう、事務局として精一杯の努力を続けていきたいと考えています。

明治24年（1891年）に彦根市立病院が創設された8年後、明治32年に宮崎政次郎（みやざき まさじろ）という人が現在の彦根市開出今町で産声をあげました。この人は後に若くしてカナダに渡り、苦学の末、医師となりまた村会議員

への道」（熊田泰章〔編〕、彩流社）という書籍の中に、カナダにおける日系移民の地域共生―宮崎政次郎を事例とした一考察“という論文が掲載され、その中でその生涯が紹介されています。

となって日系人や先住民の人たちの命と生活を守りました。宮崎医師はカナダでの地道で献身的な奉仕的活動が評価され、昭和52年に

特筆すべきエピソードは、カナダの山村での往診についてです。馬で山道を100kmも歩いたり湖をボートで渡り対岸の山道を徒歩で登ったりして患者のもとにた

経済の発展とともに医療の進歩もめざましく、宮崎医師が活躍した時代と現在とは社会背景や技術水準、医療の提供体制など、比較のしようもありません。しかし地域住民の命を救い健康を支えるという市立病院の役割や、地域に期待される病院、信頼される病院であることなど、地域の皆さんと心がかよう病院であり続けることの大切さを、宮崎医師の活躍から学ぶことができます。

医療は、医師や歯科医師による診察や治療がその要となりますが

来年は、昭和59年（1984年）に宮崎医師が亡くなられてちょうど30年目を迎えます。この彦根市立病院から犬上川を挟んで南東にたたずむ集落、そこが旧の開出今町です。カナダという遠い国で活躍された先人も、どこから故郷と故郷の病院に思いを寄せてくださっているような気がします。

☆知って得する病気の話



感染性胃腸炎について



感染管理認定看護師

谷 久 弥

一般的な呼び方で、「胃腸カゼ」といわれている病気をご存知でしょうか？正しくは「感染性胃腸炎」といい、原因となる菌も季節によって様々です。今回は、冬場に保育園や幼稚園・高齢者施設などを中心として多数の集団感染を引き起こしやすいとされる、ノロウイルスによる感染性胃腸炎についてお話したいと思います。ノロウイルスによる感染性胃腸炎は誰にでも起こり得る病気ですが、乳幼児や高齢者・持病がある方などは重症化する可能性が高いため注意が必要です。

【ノロウイルスによる感染性胃腸炎について】

●ウイルスの特徴：感染力が強い

消毒薬に対する抵抗性が強い

原因と接触してから症状が出るまで平均 1～2 日

●感染経路：①飲食物からの感染

②人から人への感染（不十分な手洗い・飛散したウイルスの吸入）

●症状：下痢・おう吐・吐き気・腹痛・発熱など

●治療：特別な治療はなく、出現している症状に対する治療となる



ノロウイルスによる感染性胃腸炎を予防するためのポイントは、①手洗い ②食中毒の予防 ③おう吐物・便の適切な処理であるといえます。おう吐物・便の中には多量のノロウイルスが含まれているため、処理をする時には細心の注意が必要となりますので、その方法についてご紹介します。

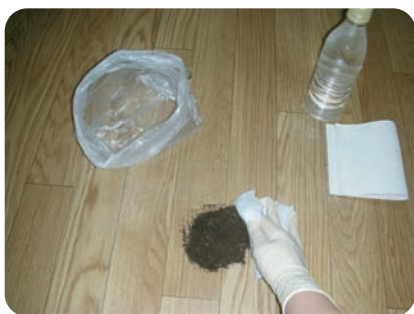
手 順

※おう吐物・便の処理をする時は、十分に部屋の換気を行なって下さい。



1. 作業者は、感染予防を目的として「マスク」「エプロン」「手袋」を装着する。

「マスク」ウイルスの吸入を防ぐ
「エプロン」衣服の汚染を防ぐ
「手袋」手の汚染を防ぐ



2. 使い捨てガーゼや新聞紙等を用いて、おう吐物・便をしっかり拭き取る。

汚れを広げないように、
外側から内側に向かって拭く



3. おう吐物・便または、拭き取りに使用した紙等をビニール袋に入れる。

4. おう吐物・便で汚れた場所（床・じゅうたん等）を、家庭用塩素系漂白剤（0.1%に薄めたもの）で浸した使い捨てガーゼや新聞紙等で拭き取って消毒をする。



家庭用塩素系漂白剤で金属部分を消毒すると錆びるため、10分後に水拭きをする



5. 消毒に使用した紙等とマスク・エプロン・手袋を、ビニール袋に入れてしっかりと密閉する。

6. 石鹸を用いて手をしっかり洗う。

手の消毒用アルコール製剤は、ノロウイルスに対する効果が弱い



【家庭用塩素系漂白剤を0.1%に薄める方法】

家庭用塩素系漂白剤
（キッチン用）10ml



水道水 490ml



消毒薬完成
（全量500ml）

ペットボトルのキャップは約5ml

注意事項

- 誤って飲まないように気をつける
- 消毒薬は作り置きしない（時間が経つと消毒効果が低下する）

骨粗しょう症との関係

骨粗しょう症に効くお薬を飲む必要があるとき、親知らず歯など口腔内に慢性炎症巣があると副作用で顎骨壊死という症状を起こすことがあります。



顎骨壊死の写真

糖尿病との関係

親知らずなどの口腔内慢性炎症は血糖コントロール不良の原因となります。

関節炎・腎炎との関係

親知らず歯などによる慢性炎症を起こす細菌はいろいろな毒性物質をもっており、多くは免疫が働き排除されますが、何らかの理由で関節や腎臓に毒性物質が沈殿するとアレルギー反応が出て発症するといわれています。

動脈硬化との関係

口腔内細菌が血管の中にはいるとそれを貪食する細胞が血管にこびりつき血管内壁を狭くすることがあるといわれています。

ピロリ菌感染疾患との関係

親知らず歯などによる慢性炎症を起こす細菌

菌はピロリ菌感染による胃潰瘍の引き金や悪化の一因と言われています。

皮膚疾患との関係

親知らず歯などによる口腔慢性炎症が原因不明の皮膚炎や湿しんの原因であることがあります。歯周病治療と親知らず歯の抜歯手術をして治ることが少なくありません。

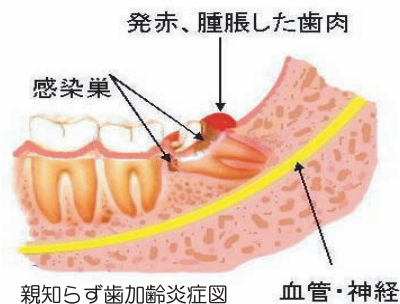
親知らず歯は何歳ごろ抜けばいいのか？

最近では、いわゆる

16〜17歳頃、受験勉強が始まる頃に初めて症状が出ることも多いように感じます。よって16〜17歳頃から早い時期にとお勧めしています。



親知らず抜歯手術中写真



名前の由来でお話し
たように、人生の重要な場面に直面している頃、問題が生じやすいので、25歳をすぎると年齢とともに進行する歯周病のように早めの

治療（抜歯手術）をお勧めしています。

もともと親知らず歯、抜歯手術は顎骨を削除することが多く難度の高い手術ですが、年齢とともにさらに難度が高くなります。例えば、年齢とともに骨の吸収が進んでいると下顎の場合、神経（下歯槽神経や舌神経）を傷つける可能性が高まり、場合によっては、麻痺や痺れが残ることがあります。一方上顎の場合、副鼻腔のひとつである上顎洞と口腔が交通して、口腔機能の欠落（飲んだものが鼻からたれる）や上顎洞炎（蓄膿症）を引き起こすことがあります。また、外来局所麻酔の場合、手術時の長時間開口による顎関節症状の悪化も懸念されることのひとつです。下顎も上顎も炎症を繰り返したり、年齢を重ねると骨と歯が完全に癒着した状態になり、手術時、術後とも状態はよくありません。治療期間が長期化する傾向があります。以上のような理由から、年齢的には早めの治療（抜歯手術）をお勧めしている次第です。

当院では、手術計画を立てる際に通常、歯科医院で撮られるレントゲンの診断で特にリスクが高いと疑われるときにはCTやMRIなどによる画像検査を行っています。安心、安全な手術が出来るように心がけております。

☆知って得する病気の話

親知らずのお話 後編

歯科口腔外科部長

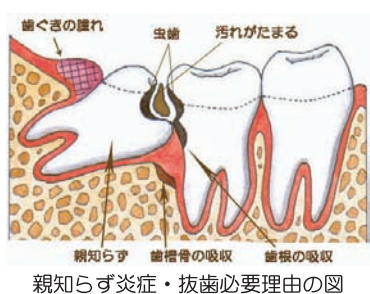
山田 剛也

臨床研修歯科医

平井 真哉

がまんできる症状ならば抜かなくていい？

特に女性では20歳代後半から30歳代で親知らず歯の症状が出る 경우가多くあります。こ



れは妊娠と大きな関係があります。妊娠中は、例えばつわりなどで歯みがきが難しくなりがちで、そのため親知らず歯が炎症を起こしやすいな

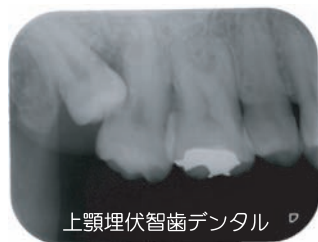
ります。一方急性炎症が起こっても、通常であれば使用する抗菌薬や痛み止めなどは基本的に使用できません。さらに、症状のない炎症（慢性炎症）が持続するとおなかの赤ちゃ

んが小さく生まれたり、出産時の悪影響としては早産になるリスクが高まるなどの影響を及ぼすことがわかっています。

超高齢化社会を反映した事例もあります。



下顎水平埋伏智歯のレントゲン写真



上顎埋伏智歯デンタル

原因不明の顔面腫脹で来院された



半埋伏の写真

た92歳の女性があられました。ご本人もご家族も40数年前に歯は全部だめになって、それ以来総入れ歯だから歯が原因ではないと思っています。いらしたようですが、レントゲンを診ると上顎埋伏智歯と下顎水平埋伏智歯があり、それが原因でした。このようにないと思っていたが実は埋伏しているということもあります。

”歯周病は口の中の生活習慣病である”という言葉を目にされたことがあると思います。

細菌によって歯が植わっている骨が吸収されていき、何も自覚症状がなく進行してしまつ慢性炎症の病気です。35歳以上の日本人は約90%が罹患しているといわれています。年齢とともに、歯周病の率はあがっていきます。このような歯周病が全身に及ぼす影響は良く知られています。この歯周病に比べて親知らず歯による慢性炎症度は大きいもので、口腔内慢性炎症が全身に及ぼす影響もそれだけです。

口腔慢性炎症を親知らず歯が全身に及ぼす影響

口の中にはヒトの体で最も多くの種類の細菌が存在しています。歯垢（しつ）という言葉を目にしたことはありませんか？食物の食べかすと思われている方も多いのですが、じつは歯の表面に付着して増殖する生きた細菌の塊で、0.001gの歯垢の中におよそ1億個もの細菌がいるといわれています。これで口の中の多くの病気はおこるといってもよいくらいです。親知らず歯の炎症もこれにより発症します。他にも次に記すような危険性を持ち合わせています。

富士山に登るために、山登りの
予行練習をしていた山の紹介！

外科の先生たちと一緒に御池岳。

それまでハイキング程度の山登りしか
したことがなかったけれど、初めての本
格的な登山に挑戦しました。

運動神経抜群で、登山経験者の先生た
ちに、たくさん助けていただき、無事に
山頂へ。

いい景色に感動し、さら

に山登りへの興味を
もった登山になりました。



途中で先生たちと記念撮影

青空と安田Dr...Niceショット！



病棟の先輩たちと一緒に伊吹山。

わいわいにぎやかなメンバーで、楽しい登
山でした。滋賀一番の伊吹山もなかなかハー
ドで、山頂で食べたソフトクリームはこの夏
一番美味しかったです。

いいお天気で、みんなまっくろに日焼けし
ました。



頂上で外科の先生たちと記念撮影

(左から小野ナース 大石Dr. 安田Dr. 小松原Dr.)



頂上で病棟のなかまたちとの記念撮影

(左から池野ナース 伊藤ナース 小野ナース
奥谷ナース 堤ナース)



なかよしの同期と

一緒に小谷山。

まったくマイペース
な山登り。下山後には
山のふもとの温泉につ
かって、汗と疲れを癒
しました。

秋は紅葉シーズン、
登山にぴったりの気候
なので、色々な山に
チャレンジしたいと思
っています。

マイペースで余裕のVサイン



院内楽楽通信 たのらく

富士山登頂!!

6B病棟看護師

小野 沙弥



8月の夏休みに、1泊2日で世界遺産・富士山へいってきました。

富士山は、日本一の山

だけあってとても過酷な登山でしたが、夏のいい思い出になりました。

今回はツアーに参加し、ガイドさんに連れられての登山でした。京都からバスで富士山吉田口5合目に到着したのは、18時。5合目から登りはじめ、2時間の仮眠をとって、頂上を目指しました。

頂上まで、仮眠を含めて10時間。砂ぼこりや、全身の関節の痛みに耐えながらの登山でした。

しかし、夜景の中に浮かぶ影富士、流れ星、頂上でみたご来光…辛かった分、感動をたくさんもらいました。

そしてなにより、下山後に入った温泉は、最高にいいお湯！滋賀に帰ってきて5日間、筋肉痛に悩まされましたが、来年も富士登山を計画中です。



頂上で思わずVサイン



ご来光まであと10分



頂上で見たご来光



砂ぼこりの中
列を組んで下山



山頂で富士山ポーズ



世界遺産
富士山!!!



「糖尿病ウォークラリーin彦根」11月16日(土)

秋晴れの中、会場となった滋賀県立大学構内をさっそうと歩きました



特別ゲストには、あの有名な
テツandトモさんに来てもらいました



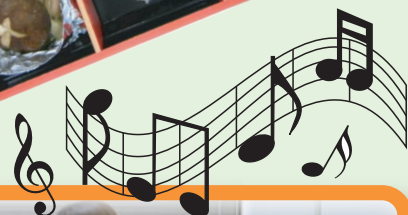
☆参加者、スタッフ780名での集合写真☆

彦根市立病院では、市民の皆さんに糖尿病の予防、治療などに関心を持っていただき、理解を深めてもらうため、啓発イベントとしてウォークラリーを実施しました。



「第12回彦根市立病院健康講座」 11月9日(土)

恒例となりました「健康弁当」を食べながらの
ミニコンサートで、リラックス♪



内科 黒江医師の講演

彦根市立病院健康講座

「本当は美味しい！糖尿病食」
ユーモアあふれる話で会場から
笑いも出ました

糖尿病の定義

「血糖値(血中のブドウ糖)が高くなる病気」

- ・ 症 状: 喉の渇き、多飲、多尿、疲れやすい。
- ・ 合併症: 網膜症、腎症、神経障害
脳梗塞、心筋梗塞、足の壊疽など。



「健康体操」
お家でも気軽に取り組みそうです！

ティーブレイクでは、低カロリー
甘味料を使った甘納豆をおいし
くいただきました



◎ 院内探検隊 ◎

★ | 脳神経外科 | ★



部長（脳卒中地域連携バス担当）

中久木 卓也

皆さんこんにちは。脳神経外科を紹介させていただきます。

当院での脳神経外科の役割

当院の脳神経外科は1996年に金子隆昭（現 院長）が赴任してから、どんなに忙しくても救急疾患を断らない診療体制を整え、現在では湖東医療圏の脳疾患救急の



大部分を支えるまでになりました。金子医師が院長となった後、井坂文章部長を中心にさらなる医療体制の充実を図っています。当科が扱う

疾患は、脳卒中（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血）、頭部外傷、脳腫瘍、脊髄疾患、その他の神経疾患（てんかん、意識障害）と多岐にわたります。手術のみならず体にあたる負担の少ないカテーテル治療や内視鏡治療もいち早く導入し実践しています。

県内トップの件数を誇る血栓溶解治療

脳神経疾患は緊急性が高く迅速な対応が必要です。当院では、専門医3名専攻医1名の4名体制で365日24時間救急対応しています。

救急外来スタッフの協力もあり脳梗塞発症から45時間以内に行う血栓溶解治療の件数は滋賀県でトップです。

頭部外傷、くも膜下出血、脳出血などの救急疾患も麻酔科、手術室スタッフの協力で迅速に手術を行っています。

入院後の個々人に応じた治療計画

病状が安定していれば5B病棟を中心に入院加療を行います。他の疾患より介助や身体援助の必要性が高く看護スタッフ、リハビリスタッフと定期的にカンファレンスを行い個々人に応じた治療計画を立てて退院、転院に向け協力しています。

急性期から慢性期への治療をシームレスに

脳卒中になると運動障害、嚥下障害、失語症などの症状が出現し、治療を行っても十分に回復しないこともあります。当院では手術や点滴などの治療と急性期リハビリを行います。症状が落ち着けば回復期リハビリ専門病院で治療に専念していただきます。急性期から慢性期への治療をシームレスに（切れ目なく）行うために脳卒中地域連携バスを用いてリハビリ専門病院へ速やかに転院し、在宅治療につなげていく取り組みを行っています。専門のソーシャルワーカーが転院、在宅医療に関する相談をうけています。

今後地域に根付いた急性期病院としての役割を果たすように、各部門と協力して頑張っています。皆さまの力でよりしくお願ひ申し上げます。



「世界糖尿病デー2013」

ブルーライトアップ

「世界糖尿病デー」の11月14日
当日は、日本各地の名所がシンボルカラーの青色にライトアップされました。
彦根市でも、国宝の彦根城天守が青く輝きました。



糖尿病は世界の成人人口のおよそ5～6%となる、2億4600万人が抱える病気で、2025年には3億8000万人に達すると予想されています。拡大を続ける糖尿病の脅威を踏まえ、国連が11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の啓発活動が展開されています。

がん相談支援センターからのお知らせ

平成25年度彦根市立病院がんフォーラムを開催しました

今回で4回目となる「彦根市立病院がんフォーラム」ですが、今年は過去最多の236名の方にご参加いただきました。

テーマは「今日からできるがん予防」で、外科の寺村副院長を始め、呼吸器科の月野主任部長、内科の来住部長、仲原医長、皮膚科の山本医長より、がんの予防について講演がありました。

満員となった会場では、先生方の話にメモを取りながら、みなさん熱心に聞いておられました。



防するには？

つけて健康な胃をつくるには？



また、アンケートからは「とてもわかりやすく大変勉強になりました。」「有意義なフォーラムに参加できてとてもよかった。またの機会を楽しみにしています。」などの嬉しい感想を多くいただきました。

今後、がん対策を進めていく上で、地域のみなさん一人ひとりが、いつかは自分もがんになるかもしれない、という意識を常に持ち、積極的にがんを予防し、検診を受けることが大切だと考えています。このようなフォーラムが、皆さんのがんへの関心を高めていただけるきっかけになればと思っています。

「ようこそ、栄養科へ」

えんげ ★嚥下障害のお話★

「嚥下」とは「飲み込む」ことを意味します。

食べ物やお茶を飲みこむとき「ムセ」やすくなったり「ゴクン」ができなくなる状態を「嚥下障害」と言います。嚥下障害の原因は加齢や病気など様々です。

「嚥下障害」で最も気を付けないといけないことは、食べ物やお茶が誤って「気管」に入ってしまう状態です。このような状態を「誤嚥（えんげん）」と言います。

私たちが「誤嚥」したら「セキ」をして吐き出すことが出来ますが、嚥下障害のある方は吐き出すことが難しく、気付かないうちに気管へ入ってしまつて肺炎を起こしてしまいます。そこで飲み物などに、**とろみを加えるなどの工夫**をすることで、「誤嚥」を予防することが出来ます。

栄養科から提供している
嚥下食



〈主食〉全粥ゼリー
〈主菜〉鶏団子のケチャップ煮
〈副菜〉キャベツ煮
〈デザート〉ブイクレスゼリー

「お茶ゼリー」始めました！

栄養科では、10月から

嚥下機能が低下している方を対象に、「お茶ゼリー」の提供を始めました。お茶の風味を楽しんで頂きながら、安全に水分補給をすることが



出来ます。また、お茶ゼリーに使用しているお茶は抗酸化作用のあるカテキンを強化したもので、口腔内の衛生環境を整えてくれる働きも期待できます。

★えんげ 誤嚥を防ぐポイント★

嚥下機能が低下した方は、食べ物を飲み込んだ後も、少量の食べ物のがどに残留してしまうことがあります。誤嚥を防ぐためには食べ物とゼリー状にした水分を交互に口にしていくがポイントです。



冬は体を温める食事を心がけて —日々の食事に旬の野菜を—

冬場は体調を崩しやすく、免疫力も低下しやすい時期です。出来るだけ体を温める食事を心がけましょう。

今が旬の根菜類には体を温めてくれる作用があります。また、ビタミン類や食物繊維も豊富なので、免疫力アップにも効果的です。根菜はじっくり火を入れて煮込むことで素材のもつ美味しさがじんわりと出てきます。さらに、発酵食品である味噌も体を温め、腸内環境を整えてくれます。

根菜のみそ汁



材料(1人前)

大根	20g
ごぼう	10g
にんじん	10g
れんこん	10g
青ねぎ	5g
かつおだし	120ml
みそ	10g

【作り方】

1. 根菜類を好みの大きさに切る。青ねぎは小口切りにする。
2. かつおだして根菜類を煮込み、具が柔らかくなったら味噌をとき入れる。
3. 最後に青ねぎを散らして完成

ブロック受付



1ブロック
(内科 循環器科)



2ブロック
(神経内科 脳神経外科 整形外科)



3ブロック
(形成外科 皮膚科 緩和ケア科 心療内科 呼吸器科)

皆さん、こんにちは！今回は医事部門の『ブロック受付』について紹介させていただきます。

『ブロック受付』は、1ブロックから6ブロックまでの診療科受付を行っており、各ブロックのカウンターにて、様々な案内業務や、一部書類の取り扱い、診察の事務的準備、電話の対応などを主な業務としております。

各ブロック各診療科に分かれておりますので、患者さんお一人お一人に寄り添った内容のご案内や、患者さんと診察室の医師や看護師とのより良い橋渡し役になるべく、日々の業務に勤しんでおります。

患者さんが帰路につかれるときには、「どうぞ、お大事に」「お気をつけてお帰りください」心からそう思いご挨拶させていただいております。

【あったかハート】で【ほっとスマイル】をモットーにブロック受付スタッフひとりひとりが、患者さんお一人お一人に安心とぬくもりを感じていただけるようにと笑顔で頑張っています。

ご来院時、わからないことや、お困りのことがあれば、どうぞお気軽にスタッフにお声をおかけください。



4ブロック
(外科 泌尿器科)



5ブロック
(耳鼻いんこう科 眼科 歯科口腔外科)



6ブロック
(小児科 産婦人科)



看護部だより 「スマイル」



透析看護認定看護師

古川 加生里

【透析看護認定看護師について】

透析看護認定看護師について少しお話したいと思います

透析看護は、現在透析（血液透析・腹膜透析）をされている方の、完全で安楽な透析ができ、日常生活を無理なく送っていた



透析室

だけるように、透析中の管理や合併症の予防について、透析をされている方と向き合い寄り添っています。

認定看護師は透析をされている方やこれか

ら透析をされる方、腎臓の機能が悪くなり療養をされている方また、医療スタッフへの関わりをおこなっています。

現在透析をされている方は勿論、保存期腎不全（慢性腎不全）と診断された時から患者さんとの関わりが始まります。

【活動場所と仲間】

現在、外来で勤務をしていますが、透析室のスタッフとも連携を取り活動しています。

透析室のスタッフは、看護師・臨床工学技士・看護補助者・クラークで、透析患者さんの食事指導には、管理栄養士と様々な職種の方とチーム医療を行っています。

外来維持透析患者さんは、現在75名前後おられ、提携病院からの循環器科・整形外科・形成外科・脳神経外科などの入院透析にも対応しています。

血液浄化センターは、機械がいっぱいで怖いイメージがありますが、気軽に一度足を運んでみてください。

【生活者として考える】

慢性疾患の患者さんは、生涯に渡り自己管理をしていただくことが必要です。



初期の段階から、患者さん自身で自己管理ができるよう援助させていただきます。

考え方や生活習慣はそれぞれ違いがありますので、一人一人に合わせた対応や指導内容・指導方法を十分に考えながら患者さんに接していくことを心掛け活動に取り組んでいきます。

患者さんやご家族の方との看護相談室も開いていけるように準備を行っています。食事のこと生活のこと通院のことなどいろいろな悩みや不安などに対応できるようにと考えています。

～ご意見番より～

Q. 1階の障害者用トイレに便座クリーナーを置いて欲しい。

A. 便座については定期的に清掃をしております。便座クリーナーをすべてのトイレに設置することは費用がかかるため、外来診療時間に多く利用されると思われるトイレに設置しています。今後ご要望が多数になれば検討していきたいと思います。

(設置トイレ：売店横、中央処置室車椅子用トイレ、内視鏡トイレ、6ブロック横トイレ、臨床工学科横トイレ)



Q. 会計窓口でしばらく待つよう言われ、待っていたが30分待っても呼ばれないので窓口に行ったところ、一番端のカウンターから何度も呼んでいたとのこと。はじめに受付をした担当者から呼ばれると思い、その近くで待っていたのに端から小さい声で呼ばれても聞こえない。

A. 通常、番号札を患者さんにお渡しする際に、⑤番窓口からお呼びする旨、案内した上、まずはマイクを使わずお呼びし、患者さんが来られない場合にマイクによりお呼びすることにしておりますが、窓口での対応が徹底できていないように思われます。今回ご指摘いただきました事を真摯に受け止め、患者さんにとってわかり易くやさしい対応をとるよう改めて指導いたしました。ご理解を賜りますようお願いいたします。

Q. あらたに入院して来られた患者さんのベッドの調整をするのに際し、私のベッドに体をぶつけてきた為、寝られなかった。PM10時以降に大部屋に見舞いにくる人がいて、迷惑だ。見回りを強化して欲しい。

A. 大部屋でのベッドの移動に際しては患者さんの安全に十分配慮し、すみやかに対応いたします。消灯後の面会は原則、お断りしております。どうしても場合はお部屋以外で面会いただくよう、今後、十分指導してまいります。

Q. デイホール内の携帯電話(au)の部屋の電波がつながりにくい。

A. 9月13日にauの携帯電話使用時に電波状況の悪い5F, 6F, 8Fのデイホールにアンテナを設置いたしました。



救急窓口での受付の男性がとても親切で、やさしく、丁寧に対応してくれました。ありがとうございます。



「苦しいし食べられないし、寝られないので早く天国から迎えに来て欲しいと思っている。」と言うと薬剤師さんが「循環器は手術だけでは治されへんのか、担当の先生があなたのために一生懸命考えてくださっているのにそんなん言うたらあかん!!」と言われ、驚くとともになんといい人なんだと感心しました。ほんとうにありがとう。いつまでも憶えておきます。



看護助手さん、大変お世話になりました。外来から入院と準備が出来なく、パジャマや下着の数がなく困っていたことを知って、「困っていることがあれば何でも言ってね」といつも声をかけて下さって、いろいろ助けていただき、安心して入院生活が出来ました。ありがとうございます。



医療相談室の喜怒哀楽

医療相談室のスタッフ紹介

医療社会部の部長は、日村 好宏副院長です。部内組織の医療相談室は、下記のメンバーが担当しています。

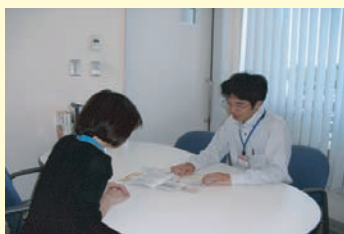
看護師2名 医療ソーシャルワーカー4名 事務員1名です。笑顔で心をこめて相談対応をいたします。



業務内容は相談支援業務・退院調整など

- ・入院療養の相談や社会復帰・転院先について
- ・介護保険制度や社会福祉制度の利用について
- ・経済的な課題について
- ・診療に対しての悩みや疑問について
- ・在宅療養の過ごし方

など漠然とした不安を傾聴し解決方法を調整いたします。



[退院前在宅訪問]

住宅環境などの確認をしたり、カンファレンスの前に福祉用具や段差の確認など、ケアマネージャーやリハビリスタッフと自宅訪問をします。強い味方・・・湖東地域リハビリテーション広域支援センター 訪問看護師

[虐待予防支援・自殺予防支援]

地域の行政や福祉と連携し支援をします。個別対応をしています。

[地域連携パスを利用した転院調整]

本院では、脳卒中地域連携パスと大腿骨頸部骨折地域連携パスを利用し積極的な回復期リハビリ病院への転院支援をしています。

「病院機能評価」で得たもの

彦根市立病院では、本年度「病院機能評価」(日本医療機能評価機構)を受審しました。医療の質の向上と病院の改善が課題です。本院の理念「住みなれた地域で健康をささえ、安心とぬくもりのある病院」を目指して一丸になり準備してきました。患者さんのケアに沿ったプロセス評価となり、普段、医療相談室などで実践していることが評価につながりました。「基準・標準化・システム作り」を見直しました。「継続看護委員会」リンクナースも活動しました。患者サポートをいかに充実していくのか幾度も検討しました。審査の結果はこれからですが、チームが団結すること・患者さん家族さん中心の医療・福祉について組織全体が学ぶことができました。

地域との連携…ネットワーク！！

湖東地域ネットワークを平成17年に立ち上げ、現在9年目となりました。湖東地域の4病院が連携し、患者さんの支援などそれぞれの病院の機能と役割を果たし、安心して医療と介護を受けて療養をしていただく支援をしています。「顔の見える連携」を合言葉で今年も、スタッフの研修会を計画したり、ALS患者家族会の支援を彦根保健所とともに実施していきます。



医療相談室では、種々の相談に対応する専門の職員がいます。安心してご相談ください。

「喜」一緒に感動し、一緒に喜ぶことができます

「怒」一緒に怒ります。なぜなのか考えます

「哀」悲しい結果となっても辛さを共有します

「楽」「相談」は、心と体の負担が楽になればと考えます。

少しでも「楽」が共有できるようにしたいです。人と人とのつながりが相談室です。

これであなたも10歳若返る!?

腰痛予防体操

リハビリテーション科 伊藤太久哉
モデル：藤井 淑子

その4～体幹筋のトレーニング step1～

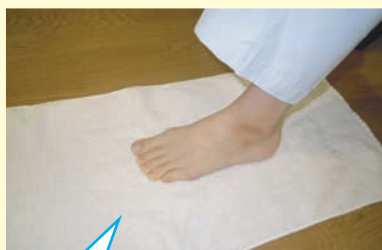
今回で腰痛予防に着目した体操をスタートして第4回となりましたが、今までの体操を継続して行えていますか？第1回～3回は主にストレッチをご紹介しましたが、今回からは筋力を強化していく運動となります。鍛える部位は体幹筋である腹部の筋となります。腹部の筋でもインナーマッスルと呼ばれるより深部に位置する筋の運動です。今回も特別難しい運動ではなく、どこでも気軽に出来るものとなっていますので頑張ってみましょう。また、冬も本格的となり足が冷えやすい時期となりましたが、足裏が冷たくなると転ぶリスクが高くなると言われています。今回は腰痛予防に加え足の血流を上げる運動もご紹介しますので、是非行って下さい。

<お腹の筋力をアップするトレーニング>



- ①上の写真のように両手を骨盤の内側に当てます。
- ②お尻の穴をぎゅっと閉めつつ、お腹をへこませるように力を入れます（6～8秒間息を止めずに行います）。この時、手で触れている部位で筋が収縮しているのを感じます。この運動8回を1セットとし1日に2～3セット、週に3～4回行って下さい。

<足の血流を良くする運動>



- ①上の写真のようにタオルの上（出来るだけ下端）に足を乗せます。



- ②足の指全体を使ってタオルを掴んでたぐり寄せます。これを最後まで行ってください。

※現在治療中の方や、痛みのある方などは必ず医師の指示のもと行うようにして下さい。また、血圧の高い方は無理のない範囲で行って下さい。



『心と体の放送室』

彦根市立病院では平成21年6月よりエフエムひこね（78.2MHz）にて放送による医療情報提供を行っています。

医療や病院に対する誤解を解消し、病気の知識を広く知っていただきたいとの思いで始めたものです。誤解の一例をあげますと、彦根市民の皆さんの半数以上は、当院での救急車受け入れが不十分であると考えておられますが、実際は救急車受け入れ率は約99%で日本一です。

このような誤解は市民にとりましても病院にとりましても不幸な状況です。



第1回目の録音風景
(平成21年6月3日)

毎日が新しい放送内容で月曜から水曜日の1日7回、同内容での5分間の放送です。

《放送時間》
6:40～ 7:50～ 9:40～ 11:50～
13:30～ 16:40～ 19:50～

平成25年10月末までで1129日分の放送を行っています。

過去の放送分はホームページの『心と体の放送室』にてお聴きになれます。

お聴きになりたい内容を簡単にタイトルや分類から探していただけます。

是非ご利用ください。

●●● 人間ドックのご案内 ●●●



【人間ドックで早期に発見できる主な病気】

生活習慣病：高血圧症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症

(通風) など

がん：胃がん、大腸がん、肺がん、肝臓がん、膵がん、
腎がん、前立腺がん、乳がん、子宮頸がんなど

(※但し、健診の検査だけで全てのがんが早期に発見できるわけではありません。)

その他：ウィルス性肝炎、胆石症、慢性腎障害、血液疾患、
呼吸器疾患、心臓疾患、眼疾患、難聴など



Q & A

Q 申し込み方法を教えてください。

A 人間ドックは全て予約制です。お電話でご予約ください。時期や検査内容によってはご希望の日程でお受けできない場合もございます。早めのご予約をお願いします。

Q 検診費用の補助(助成)はありますか。

A ご自身の加入されている健康保険組合やお勤め先の事業所にお尋ねください。

Q 日帰り人間ドックにかかる時間はどのくらいですか。

A 検査内容にもよりますが、午前中にはすべての検査が終了する予定です。

※各種クレジットカードでのお支払いも可能です



コース一覧

○日帰り人間ドック (半日)

料金 39,800円

医師の診察、身体計測、血液検査、尿検査、胸部X線撮影、胃部X線撮影 (又は、胃部内視鏡検査)、眼底・眼圧検査、心電図、肺機能検査、腹部超音波検査、肛門診

○宿泊人間ドック (1泊2日)

料金 60,000円

1日人間ドックの項目に加えて、食後血糖測定、骨密度検査などが追加、2日目に医師より結果の説明がございました。

○脳ドック

料金 28,500円

脳の画像診断 (MRI・MRAのセット検査) で未発症の脳血管疾患や脳梗塞、またその危険因子を発見する事を目的としたコースです。

※上記の人間ドックと同日受診はできません。

○オプション検査

(日帰り・宿泊ドック受診者のみ) 乳がん検診、子宮頸がん検診、骨密度検査、ABC検診、腫瘍マーカーなど

※各コースの詳細な検査項目や、オプション検査につきましては病院ホームページまたは、院内設置のパンフレットをご覧ください。

【検診のお申し込み、お問い合わせ、
内容などのご相談】

お電話又は検診センター窓口にて承ります。お気軽にお問い合わせ下さい
業務時間 午前8:30～午後5:15 (土・日・祝祭日を除く)

TEL : 0749-22-6058 (直通)

FAX : 0749-22-6054

秋の音楽会

ひつじのアニマルセラピー



10月11日昨年に引き続き今年もひつじと一緒にリハビリ庭園で秋の音楽を聴きながら、ティータイム。
患者さん6名ご家族2名参加してくださいました。
少し暑かったりもしましたが、ひつじとふれ合い笑顔で楽しいひとときを過ごしました。

